2011年度　早稲田大学　法学部

日本史　解答例

Ⅰ　原始～近世の東国と西国　＜易＞

問１関東　問２お　問３い・え　問４造山(古墳)　問５お

問６御成敗式目〔貞永式目〕　問７大友　問８福島正則

問１は最後の空欄でようやくわかるという「焦らし問題」となっていた。こうした問題を楽しむ余裕を持ちたい。問５は「紀古佐美」が超マイナー用語で難しいが、残る選択肢の時期がわかればそれだけで正解にたどりつく。ここで「雄勝城」につまずいた人がいたら、それは出題率を無視しすぎだ。「紀古佐美」と違って「雄勝城」は、2007年の早稲田大商学部をはじめちらほら出題されている用語である。この用語について、何を覚えておくべきかは夏期講習のテーマ別対策講座でお伝えする。

Ⅱ　古代～中世の政治・文化　＜やや易＞

問１え　問２(A)陰陽五行説(B)おんみょうじ　問３②菅原道真⑤天竜

問４う　問５あ　問６孫子　問７富樫政親　問８う

問１は各史料を読解して解く。人名も大いなるヒントだった。問２の(A)はめったに書かされることはないが、早稲田で出題されたのなら正解したい。問６は「孫子の兵法」なんて言葉を、どこかで聞きかじっていたら正解できたかもしれない。受験日本史としては難問である。

Ⅲ　近代の政治　＜易＞

問１桂太郎　問２お　問３え　問４い　問５原敬　問６い・お

問７寺内正毅　問８あ　問９西園寺公望　問10伊藤博文　問11え

法学部では定番化している「日記」からの史料問題。５題ある正誤問題の中には、正誤判別ができない選択肢も存在するが、「たぶん正しいだろう」とか「たぶん誤りだろう」などとスルーして、正解たる選択肢を選ぶことは可能だった。ものすごく日本史を勉強したうえで、こうした解き方をしてもらいたい。

©石黒拡親 2011

Ⅳ　近現代の外交　＜標準＞

　問１い　問２万国公法　問３う　問４1873年　問５あ　問６尚泰

　問７平和の礎　問８日米行政協定　問９信託統治　問10え　問111972年

問２・問７がやや難問。問４が難問。問２は、西周による翻訳書の『万国公法』をその意味まで理解していたら正解できただろう。某大学では頻出だが、早稲田でも2008年に社会科学部で出題された。また、問７は普通の大学ではめったに出題されない用語だが、これまた2008年の早稲田大教育学部で記述問題で出題されていた。実際、受験会場でも書けていた受験生が結構いたようだ。

講評

　一部に難問はあるものの、全般的に正誤問題は解きやすく、史料問題もわりと読解しやすいものが多かった。このため９割得点も可能であった。安定した点数が取れる科目として、日本史に力を割いてほしい。「受験のための日本史」「早稲田のための日本史」で志望校合格をもぎ取ろう。

©石黒拡親 2011